

国際先導研究 審査結果の所見

課 題 番 号	25K24463
研 究 課 題 名	先住民知に基づく国際プラットフォームの構築：先住権・文化・ウェルビーイングの探究
研 究 代 表 者	加藤 博文
審査結果の所見	<p><b>【学術的意義、期待される成果】</b></p> <p>先住民固有の権利や文化に着目し、彼らの視点から先住民研究の脱植民地化を目指す本研究課題の学術的意義は高い。世界各地の先住民研究を牽引する海外拠点と連携して行う、拠点循環型の共同研究や国際共修プログラムは精緻に練られており、先住民出身者を含む若手研究者が多角的に研究を深化できる育成計画は高く評価できる。優れた研究実績と国際ネットワークをもつ「アイヌ・先住民研究センター」を基幹組織とし、国際的な先住民研究者と協働する堅固な研究体制が構築されていることで、本研究課題の安定的推進はもとより、研究期間終了後も同センターが世界の先住民研究の中核的プラットフォームとして機能していくことが期待できる。</p>

国際先導研究 審査結果の所見

課 題 番 号	25K24464
研 究 課 題 名	フェムト量子多体系で探る物質の起源～量子時代に輝く人材育成
研 究 代 表 者	中村 哲
審査結果の所見	<p><b>【学術的意義、期待される成果】</b></p> <p>本研究は、クォーク・バリオン・グルーオンを構成要素とするフェムトメートルスケールの量子多体系に着目し、原子核物理学における重要課題である「物質の起源と進化」の解明を目指す意欲的なもので、学術的意義が高い。CERN-LHC, JLab, EIC といった国際的な大型加速器施設における実験と理論を連携させた研究の推進とともに、クォーク多体系、バリオン多体系およびグルーオン多体系という異なる階層での研究を横断した若手育成計画は合理的で、学術の進展と人材育成に寄与すると期待される。特に、異なる大型研究を越境し、準備・実施・解析など異なる段階を経験できる国内インターン制度や、若手主体のプロジェクト研究プログラムは、複数の研究を俯瞰し推進することができる資質をもつリーダーの育成を促進するものとして高く評価できる。</p>

国際先導研究 審査結果の所見

課 題 番 号	25K24465
研 究 課 題 名	アルゴリズム、組合せ最適化、離散数学の次世代の国際共同研究
研 究 代 表 者	河原林 健一
審査結果の所見	<p><b>【学術的意義、期待される成果】</b></p> <p>本研究は、組合せ最適化・離散数学・量子計算など理論計算機科学の中核分野において、日本主導で国際的研究ネットワークを構築し、アルゴリズム設計の新展開を目指す挑戦的な試みである。また、国際的に卓越した研究者との連携体制の下、若手研究者が世界の第一線で切磋琢磨できる環境を創出し、次世代を担う人材の国際的自立を促す効果が大きい。学理の新展開とともに、日本の研究グループの国際的認知度向上にも寄与することが期待できる。</p>

国際先導研究 審査結果の所見

課 題 番 号	25K24466
研 究 課 題 名	国際「社会脳」ネットワーク育成
研 究 代 表 者	ヘンシュ 貴雄
審査結果の所見	<p><b>【学術的意義】</b>            言語の習得、親子間、仲間との感性・感情の共有化に基づく行動様式を社会脳と定義し、社会脳の発達過程を総合的かつ異文化横断的に理解する研究構想が高く評価された。臨界期可塑性に着目した社会脳発達の分子的・構造的基盤の解明、国際的なヒト被験者を対象とした「神経活動同調」「行動協調」「コミュニケーション調整」の計測を通じた社会性の指標化の手法も評価された。</p> <p><b>【期待される成果】</b>            本研究の推進に基づき、非定型発達（自閉症）の子供達への介入方法が開発されることが期待される。若手研究者育成に関し、研究代表者同様に国際的な活躍を担う複数の次世代研究者層の育成が期待される。</p>

国際先導研究 審査結果の所見

課 題 番 号	25K24467
研 究 課 題 名	植物の自律的な器官形成を支える情報分子ネットワークの解明
研 究 代 表 者	榑原 均
審査結果の所見	<p><b>【学術的意義、期待される成果】</b></p> <p>日米中英の植物研究者が協働し、植物の自律的器官形成を支える細胞間情報分子ネットワークの時空間構造と細胞運命決定メカニズムを解明する研究である。日本が先導するシグナル分子解析を核に、単一細胞オミクスと数理生物学を組み合わせ、植物の旺盛で柔軟な器官発生・環境応答を司る情報分子による「情報空間」の解明を目指す。</p> <p>代表・分担・海外研究者はいずれも世界的成果を挙げており、共同研究により植物固有の情報空間という新概念を理論・実験両面から実証しようとする点が高く評価された。体系的な若手育成や、作物・木質資源の生産性向上に資する植物成長デザイン技術の開発など、基礎から応用までの貢献が期待される。</p>